

データの力で一人ひとりに寄り添う昇降機 Elevators and Escalators Supporting Individuals via the Power of Data

巻頭言

昇降機インフラを 支え進化させる技術

Technology Supporting and Advancing Elevator and Escalator
Infrastructure



嶋根 一夫
SHIMANE Kazuo

東芝グループは、東芝グループ経営理念「人と、地球の、明日のために。」の下、カーボンニュートラルとサーキュラーエコノミーの実現に取り組んでおり、東芝エレベータ(株)は、縦方向の移動手段である昇降機事業を通じて、その一翼を担っています。1966年にスタートした当社の昇降機事業は、1980年から1990年代我が国の経済発展とともに技術を磨きながら、ビルの高層化に合わせて、より高速かつ快適なエレベーターを開発してきました。2000年を過ぎてからは急速にグローバル化が進み、国・地域のニーズにマッチする昇降機が求められるようになりました。また、利用者事故や、大規模地震災害によって多数のエレベーターが停止し、復旧に時間を要したことから、一層の安全・安心が求められるようになりました。

近年の昇降機業界は、更なる安全・安心の追求と輸送力の拡大の両立などに加え、DX(デジタルトランスフォーメーション)、CX(顧客体験価値)技術に注力しています。例えば、サービスロボットとエレベーターの連携運転や、スマートフォンなどからエレベーターを制御や監視をするシステムです。エレベーターを様々な設備や装置などつなげ(コネクト)、高速に情報を伝達することで、新たな価値を創出しています。

このような業界動向の中、当社は磨き続けてきた技術を適用して昇降機を作り、建物に据え付け、保守することで、昇降機をより安全・安心・快適にしています。更に、昇降機から得られるデータの活用や、ユニークな機能の導入により昇降機を進化させ、新たな価値・サービスを提供していきます。

この特集では、新たな価値を創出する Elevator as a Service、昇降機をより安全・快適にする技術、昇降機据付時の作業性と乗り心地を向上させる技術、昇降機インフラを支える最新の保守支援技術、更に、安全と安心を品質面から支える信頼性評価センターの活動を紹介します。東芝グループの中で、人々に寄り添う昇降機を提供する当社の技術力を、ご理解いただく一助となれば幸いです。

東芝エレベータ(株)取締役常務 統括技師長
Director, Executive Officer, Vice President, Chief Technology Executive, Toshiba Elevator and Building Systems Corp.